

第 3 1 回 学 校 評 議 員 会 会 議 録

平成 2 6 年 2 月 8 日 (土) 10:00~11:30

弘前高校会議室

出席者 学校評議委員 5名

学 校 側 校長、教頭 (司会)、事務長、教務主任
進路指導主任、生徒指導主任、教務部員 (記録)

1 校長挨拶

校長 : 平成 2 5 年度当初、先生方に 4 つのお願いをしました。まず、生徒とのあいさつの励行、規範意識の高揚、教育者としての誇りを持つ、公務員としての自覚を持つ。この 4 つを意識して教育活動にあたるようお願いしました。この一年よく守ってもらえたと思います。感謝しています。生徒のあいさつはまだまだですが、あいさつは社会人としての基本であり、大事なことなのでこれからも根気強く指導していかなければならないと思います。先生方には健康に留意しつつ社会の変化に対応し、勉強や研修に励み、生徒の指導にあたってほしいと思っています。

2 意見交換

教務部 : 今年度も全保護者対象の「学校評価」を行い結果を集計しました。昨年度に比べ回収率が高くなっています。本校に対する関心の高さがうかがえます。また各項目とも昨年度に比べ評価がわずかですが高くなっています。項目の中で評価が比較的低かった項目は「本校では、生徒の悩みに対して適切な指導が行われていると思いますか」「本校では、容儀・生活指導が十分行われていると思いますか」「本校では、お子様の進路指導選択にあたり、家庭と連携した適切な指導がなされていると思いますか」でした。評価が良かったのは「本校の文化祭における『ねぶた』制作と運行は、お子様の人間形成に役に立っていると思いますか」「お子様を本校に入学させてよかったと思いますか」でした。この結果は職員の励みになると思われました。「保護者を対象とした授業公開は、本校の教育活動理解する上で役に立つと思いますか」にありますように本校では春の PTA 総会の日と秋に年 2 回授業公開をしております。これが「本校で行っている土曜日の活用・講演会・各種講習などは、お子様の進路選択や学力の向上に役立っていると思いますか」の評価にもつながっているように思われます。

学校評価では他に「教育方針について」「施設設備について」「学校生活について」「家庭との連携について」「教育課程・学習指導・授業の質・宿題について」「学校評価・授業公開について」「学校行事・ねぶたについて」「部活動・文武両道について」「生徒指導について」「進路指導について」「模試講習について」「保健・衛生について」などの項目に関して多数の貴重なご意見を頂きました。これらの意見に対する学校の考えは、学校のホームページに載せております。昨年度の要望については、夏の学習環境改善のため、各教室に扇風機を 1 台ずつ設置しました。「ねぶた」については伝統を絶やさぬように、市民の理解と協力を得られる努力をこれからも続けて参ります。部活動に関しては、各部とも生徒の学習活動とのバランスを考慮しながら練習を計画しています。また今年度より「緊急連絡メール配信システム」を導入しました。この件に関しても様々なご意見やご要望を頂きました。生徒の安全を第一に考え、本校の教育活動により有効活用していくため、さらに検討を重ねていきたいと考えています。

「授業アンケート集計結果」に関しては、数学の評価が余り良くありませんでした。数学に苦手意識のある生徒が多いのかもしれませんが。各教科とも結果を分析し授業の改善につなげていく必要があります。

「中高連携事業の取り組み」として平成 2 5 年度は本校への入学者の最も多い弘前大学付属中学校へ教員 1 3 名、弘前市立第二中学校へは教頭および教員 9 名が訪問しました。中学校の授業の様子を知ることができて有意義な訪問となりました。また 1 1 月 1 日には中弘南黒地区の中学校対象にした授業参観・全体協議会・理科分科会を行いました。

た。17名の中学校の先生方に参加頂き、新学習指導要領に関する意見交換、授業の合評会も行いました。

「弘高発学力コンテスト」を今年度から地区の中学3年生対象に実施しました。多数の応募がありました。数学と英語の課題を与え、中学生が自ら挑戦し、解決しようとする精神を持ってもらい、地区の学力向上に寄与できればとの思いから実施しました。

生徒指導部： 10月以降の運動部・文化部の主な結果をお知らせします。青森県高等学校総合文化祭において、写真部が最優秀学校賞を受賞しました。最優秀賞1名、優秀賞も3名受賞しました。放送局もアナウンス部門最優秀賞、優秀賞も2名でした。囲碁部は女子Aクラス、将棋部は男子Aクラスでそれぞれ個人優勝しました。新聞部も優秀賞と論説賞、書道部は優秀賞を受賞しました。また高文連連盟賞に放送部の生徒が選ばれました。運動部の新人戦では軟式野球部が優勝、空手部が男子形優勝、硬式テニス男子シングルス優勝、水泳部女子200m自由形優勝しました。陸上競技部女子砲丸投げ、ボウリング部男子、女子学校対抗、空手道部個人男子形、女子個人形、柔道部66kg級、バドミントン部男子学校対抗、硬式テニス女子ダブルス、女子シングルスの入賞もありました。高体連優秀選手賞には剣道部、軟式野球部の生徒が選ばれ、高野連優秀選手賞にも軟式と硬式野球部の生徒が一名ずつ選ばれました。青森県体育協会優秀選手賞には、弓道部の生徒が選ばれました。

4月から生徒指導部が対応してきた事案については、学校への苦情、自転車事故、歩行中の事故などがありました。やはり自転車関係の事が多いです。

生徒指導部の行事では11月に避難訓練で学校に不審者が侵入してきたことを想定した避難訓練を実施しました。その他のとり組みとして力を入れてきたのは、遅刻生徒への指導でした。時間を守ることは学校生活を送る上での基本となることです。昨年よりも人数は減少しましたが、まだ遅刻する生徒がいます。急がせる、あいさつもする、という指導をこれからも粘り強く続けていきたいと考えています。

進路指導部： まず今年度の推薦・AO入試の結果についてお知らせします。指定校推薦では青山学院大学、東京女子大学、明治大学、明治薬科大学、立教大学、早稲田大学、同志社大学、関西学院大学に合格しました。推薦入試では、国際教養大学、昭和大学、法政大学、フェリス女子大学に合格しました。AO入試は、東北大学と日本女子体育大学に合格しています。

2月1日現在の大学出願状況の特徴としては、まず弘前大学への出願が100名であることです。来年度からセンター試験が新教育課程にあわせて若干変更になります。移行措置はありますが、やはり浪人は不利であるので、どうしても今年合格したいという気持ち強いようです。経済状況の影響で保護者の地元志向も強まっているようです。

1年生の進路志望調査では、例年通りほとんどが国公立大学への進学を希望しています。例年に比較して特徴的なのは、教員養成課程への希望が多いという点です。2年生の特徴は10月の調査で、医歯薬系の希望が急激に減少したことです。なかなか成績の伸びない生徒が志望を変えたのではないかと分析しています。

1年生の学習状況調査で4月と11月のデータを比較すると「最も得意と感ずる教科」で国語が増えて英語が減っています。この地区の中学校の国語のレベルは高いので、入学後の授業でもついていくことができ自信が付き、英語は毎日の授業が中学校よりも格段に難しくなったので得意と感ずる生徒が減少したのではないかと思います。数学は例年と異なり「最も苦手と感ずる教科」で数値が減少しています。指導がうまくいっているということかもしれません。2年生は「最も苦手と感ずる教科」で例年に比較して、数学と英語の両方が高い数値を示しています。注意していく必要があると思います。近年中学校からの変化に対応できない生徒が増えてきているように感じられます。生徒がスムーズに高校生活に対応していくことができるように、今後も注意していく必要があると思います。

教頭： 各分掌からの説明が終わりましたので、これから質疑応答に入ります。

評議員E氏： 来年度からセンター試験が若干変わるそうですが大丈夫ですか。

進路指導部： 文系は理科が基礎科目を2科目受験しなければならなくなる点が、今年度までと大きく異なります。理系の数学Ⅲでも行列がなくなり、複素平面が新しく入りました。移行措置は講じられますが、試験内容の変化は浪人生には厳しいと思われます。

教務部： 来年からは理科がポイントになると思います。理科の範囲が広がり生徒には負担になると思います

評議員C氏： 安全志向、地元志向が増えるのは心配です。同じ国立大学でも環境は大きく違います。例えば学生に対するサービス面や大学設備などです。就職の面でも有名大学には専用の就職サイトがあり、東京6大学の運動部専用の就職サイトなどもあります。有名企業も選別の労力を軽減するために特定の大学から学生を採用している現実があります。高校でも保護者に現状を知ってもらった上で、将来を見据えた選択をしていった方が良いと思います。

評議員B氏： 弘前高校に陰湿ないじめ、精神的な圧力などはありますか。

生徒指導部： 昨年度、今年度ともいじめはありませんでした。以前保護者から連絡があった場合には、学年集会を開くなどの対応を行いました。

教頭： いじめに対応するのに以前は、担任、生徒指導など学校の中だけで対応してきました。具体的には家庭訪問等をして話を聞いたりしています。あまり目立ちませんが、先生方は真摯に対応しています。ただ組織としては不十分な面もありました。しこりが残ることもありました。私は30年以上教員をしておりますが、知らないふりをする先生を見たことがありません。弘前高校も問題が起こりそうになった場合には内容をよく調べて、丁寧に対応するようにしています。

評議員C氏： マスコミが面白おかしく書く記事から、真実を見抜くのは難しいと思います。事件になってからでは遅いと思います。自殺の兆候がでている場合には、キャッチして迅速に対応してもらいたいと思います。

評議員D氏： 2年生での文理分けはうまくいっていますか。受験に有利と言うよりも、生徒の将来を見据えた選択になっていますか。また志望が変わった場合の移動はできるのですか。

教務部： 新学習指導要領が実施され、理科の履修に関する負担増がありますので、各学校でいろいろなカリキュラムを編成しています。他の学校のように毎日7時間授業にするのではなく6時間の曜日を2日だけですが確保して、部活動ができるようにしています。ただ現状では1年次に選択を迫られるので、揺れ動く生徒は少なからずいると聞いています。

教頭： 今年の3年生は3年次に文理分けをしていますが、それでも若干名は理系から文系に志望を変えました。今後ともこの問題は検証を続けていく必要がある問題だと考えています。

評議員D氏： 子供の受験の経験では3年生の数学、理科、世界史は10月まで試験範囲を終わらなかつたようです。受験対策は、本当にギリギリだったため、もっと早く試験範囲を終わることが望ましいと思います。

評議員C氏： 運動部が頑張っているのは卒業生も注目しています。この夏の硬式野球部の活躍は話題になり、励みになったそうです。これからも文武両道を目指して欲しいと思います。期待しています。

評議員A氏： 子供の悩みが分からないというケースが増えているそうです。価値観の変化が激しく、

経験が役立たない事も多く、子供の相談相手になれないと感じる親が増えています。同様に先生も自信が持てないなかで手探りで指導にあたっている学校も多いようです。

教頭 : 悩みがあっても親に伝えていない生徒が多いのは「学校評価」のデータから分かりました。そのような生徒を減らしていく努力を続けていきたいと思います。担任の先生方は放課後などの授業時間以外に、たくさんの生徒と熱心に面談をしています。

評議員C氏 : 社会はグローバル化が進んでいます。英語、数学の重要度が増しています。この能力を鍛えていかなければ、大学や社会に出てから苦勞することになると思います。しっかりと実力を付けてあげてください。

教頭 : それでは先般施行されました、いじめ防止対策推進法に伴う学校の取り組みについて説明いたします。これまではいじめが起きてから対応してきましたが、防止と組織作りが義務づけられました。難しいのは発見と判断だと言われております。特にネット上のいじめは表面に見えてきません。組織作りはこれから県と協議しながら考えていきます。つきましては評議員の皆さまにも協力を仰ぐ場面があるかもしれませんので、そのときはよろしくお願いします。

評議員D氏 : 成長には体と心のバランスが大事だと思います。高校生は悩みが多い時期です。小さな細かい事件とかもないのですか。

生徒指導部 : 机に落書きをされたという生徒がいました。担任と学年、関係する先生方ですぐに対応しました。不登校になっている生徒は、現実としています。カウンセラーや養護教諭とも相談しながら、この問題にも対処していきます。

評議員C氏 : 一番隠すのは、いじめられている生徒です。困難を伴いますが、しっかりと対応して行ってください。

校長 : 忙しい中、長時間にわたり貴重なご意見を伺いありがとうございました。私はもうすぐ退職ですが、これからも弘前高校をよろしくお願いします。

教頭 : 弘前高校のことで気づいたことがあればいつでも学校にお知らせください。本日はご来校頂きありがとうございました。

終了 11 : 30